

会 議 録

会 議 の 名 称	令和 6 年度 第 2 回日向市総合計画審議会
開 催 日 時	令和 6 年 7 月 2 3 日（火曜日）14:00～16:00
開 催 場 所	日向市役所 4 階委員会室
出 席 者	別紙名簿参照 欠席者：中田委員、児玉委員、今給黎委員
議 題	（１）まちづくりの重点課題について （２）第 3 次日向市総合計画（素案）について
会議資料の名称 及 び 内 容	・会次第 ・資料 1 第 2 回日向市総合計画審議会 ・資料 2 まちづくりの重点課題について ・資料 3 第 3 次日向市総合計画・基本構想等（第 1 部～第 2 部） ・資料 4 第 3 次日向市総合計画・前期基本計画（第 3 部 施策体系）
記 録 方 法	☐ 全文記録 ☐ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☒ 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
開会 1. 会長あいさつ 2. 経過報告 ※資料 1 を基に事務局より説明。 3. 総合計画と総合戦略について ※資料 1 を基に事務局より説明。 【質疑】 委員：会議資料について特に重要な部分がわかるようにコンパクトな資料作りをしてもらいたい。 会長：事務局はよりわかりやすい資料作りについて心がけてもらいたい。 4. 審議 （１）まちづくりの重点課題について ※資料 2 を基に事務局より説明。 【質疑】 委員：市民意識調査について、回答者の年齢等を把握していれば教えてもらいたい。 事務局：回答者の年齢は 60 歳から 69 歳までの割合が最も高く、60 歳以上が約半数を占めている。 <u>次期総合計画において重点的に取り組むべき課題や施策、市民が主体的に取り組むべきことなどについて各委員より提言。委員の番号は発言順に付番。</u>	

委員①：人口減少対策が大変重要かと考えている。人口戦略会議の資料が先日公表されたが、日向市は社会減対策が必要な自治体という評価になっている。日向市は合計特殊出生率がかなり良い数値となっており、さらにそれを2.1まで上げていくと人口が維持できるとされており、もう一歩頑張れば自立可能性自治体となる。そのためには移住定住対策、関係人口対策に取り組み、日向市に対して関係がある方や思いがある方をどんどん増やしていただきたい。

また、高校生アンケートにあったように、進学や就職を機に市内に出て行った若い方に帰ってきてもらうためにも、市内の企業を魅力あるものにし、若い方に伝えていく努力をして頂きたい。

委員②：自分の息子を例に出すが、今は県外におり、なかなかこっちに帰ってくれない状況にある。給与の差があることが一つの要因だと思うが、帰ってきてもらって、まちづくりに一役買ってもらいたいという気持ちがある。

委員③：資料1で、教育分野の施策の重要度が低く、満足度は高い結果となっている。しかし、保護者の中ではすごく満足してない状況にあると感じる。資料2で「こどもが遊べるところが欲しい」とあるが公園はあっても夏休みは熱中症対策で、外で遊ばせるのが難しく、保護者の中では夏休みをどこで過ごさせるかという話題がよく上がる。日向市の図書館は本が少なく宮崎市立図書館や県立図書館を利用することがあるため、日向市の図書館をもっと大きくし、憩いの場や交流の場が広がると良いのではないかと考えている。

委員④：先ほど意見があったように市民意識調査では教育分野の重要度が低いとなっているが、まちづくり重点課題については子育て・教育分野の項目が非常に多く、市民意識調査の結果と剥離していると感じていたところ、市民意識調査の回答の年齢層の半数が60代以上と聞き納得したところ。市民意識調査をデータとして活用するためには、20代や30代など求める年齢層の方に対してアンケートをしっかりとる方が役に立つのではないかと感じた。また、資料1の説明の中で日向市は離婚率が高いという説明があったが再婚率も高いのではないかという実感がある。そのため、市民は結婚してこどもを育てていこうという気持ちを持っていると思う。また、教育現場やこどもの場に対する対策が不足しているとあるが、日向市だけではなく他の市町村との連携も必要だと思う。例えば、図書館の事例でいうと県立図書館から本を借りることのできるシステムを作るなど、足りない部分をどう補っていくか考える必要があると思う。もう一つの課題としては、高校卒業後に日向市に戻ってこないというところが大きいと思う。若い人たちが外に出て、社会勉強して日向市に帰ってきたときに生かしてもらいたいという気持ちがある。例えば、こどもの頃にいじめにあうなど、二度と日向市に戻ってきたくなくなる経験をさせるのではなく、こどもの頃に良い経験をし、成長することができたという実感があれば、自分のこどもを日向市で育てたいという気持ちになり、戻ってくるのではないかと。加えて、親子の家庭環境をしっかりとつくれる取組ができているか、そのためには保護者が家庭の時間を取れるような労働環境になっているかも大切だと思う。

委員⑤：日向市の離婚率が高いという部分についてだが、離婚しても自立して稼ぐことができればよいと思う。そのためには男女の経済格差を埋めるような取組が必要だと思う。働き方改革を進めながら男女の経済格差を埋めていくことで、離婚をしても自立できるような社会、日向市になっていけると良いと思う。

また、シビックプライドの話があったが、日向市を誇りに思うおとながどれだけいるのか疑問を感じている。こどもが家庭の中で都会に出て行くよう親から言われると、学校でいくら学んだとしても、若い人は市外に出ていってしまうと思う。おとなも含めてシビックプライドを上げるための取組が大事だと思う。

また、稼げるまちになるためには強い産業を育てることが大事で、そのためにはカーボンニュートラルや脱炭素に取り組まなければ格差が生まれる。将来、日向市が貧しくならないような先を見据えた取組を先進的にやっていくことも重要ではないかと思う。

委員⑥：前回の審議会でも話をさせてもらったが、企業誘致に取り組み、雇用を確保する際、児童クラブの数が少ないことや利用できる時間が短いがために、保護者が労働条件を変更しなければならないという状況が生まれている。企業誘致にお金を使っているのに市民がフルタイムで働けない状況になっているので、企業誘致とパッケージで市民が働ける環境も一緒に整え、こどもを育てる環境をつくる必要があると思う。私も微力ながら協力していけたらと思っている。

委員⑦：私は生まれも育ちも東京で日向市に I ターンした。東京はとにかく便利で、近くに何でもあり、遊ぶところや買い物できるところもたくさんある。だが、東京はここ数年は熱風で一晩中クーラーをつけないと眠れない暑い日が続いている。その中で日向市は、朝夕の海からの風がすごく気持ちがいい。ふるさとの良いところを日向市出身の方は知っていると思うので、きっかけがあれば戻ってくると思う。

また、資料 2 にある「父親の育児参加の推奨を今以上に行う必要があると思う」に非常に共感した。そのためには企業のトップの意識改革を願いたい。企業のトップには、子育て中の従業員に対しての心配りが十分とは言えないと感じるので、声掛けをお願いしたい。周りに助けられながら子育てすることで、子育てを卒業したときに助けてくれ、将来その企業が発展していけると思う。先日、4 人のこどもを育てている女性と話をしたが、女性が働いていても育児は女性がするものだという配偶者やパートナーの方が多いと聞いた。やはり男性の意識改革をしていかなければ少子化対策にはならないと考えている。

また、市内のこどもたちが高校や大学への進学、就職を機会に外に出て戻ってこない現状を改善するために市役所に若者支援課を創設してはどうか。外の世界から日向市を見えるということは非常に大切で、離れて初めて気づくことが必ずあり、その気づきや学んだことを日向市に戻ってきて、日向市に生かしてほしい。そのためには、将来 U ターンすることを前提に、支度金を支給するのはどうかと考えている。

委員⑧：市長の政策目標にもあるが、稼ぐ自治体、ふるさと納税の徹底強化という部分に取り組むべき

だと思う。ふるさと納税の取組はこれまでもやってきたと思うが、一度ゼロベースにし、新たなプロジェクトをスタートさせてはどうか。「日向市はふるさと納税強化プロジェクト実施中」といったような強いメッセージを送り、まち全体の機運醸成を図ることも大事だと思う。稼ぐ自治体ということを徹底するためには、行政が仕組みを整え、担当者の頑張りだけでも限界があると思う。そのため、地域商社を設立し、特産品の発掘や観光資源を生かした商品開発などに特化した事業を専門的に行い、商工会議所や観光協会、道の駅などの様々な機関と連携を図っていく中で、ふるさと納税を向上させる担い手としての役割、稼ぐ自治体のシンボリックな存在として、多方面で大きな効果が期待できると思う。

委員⑨：私は日向市が地元で現在は東京で働いているが、日向市をPRしていくことが私の役割だと思っている。そこで、他の企業との連携事業を計画しているところだが、そういった取組を通して日向市を外にPRできると良いと感じている。

委員⑩：資料1で説明のあった市民意識調査の結果について、回答率が27.6%とのことだが総合計画のPRが足りていないのではないかと感じた。日向市の目指す姿や将来像について、おとなが理解してもらい、こどもに伝えていくことが大事だと思うため、この総合計画が日向市の将来に向けて一番大事だということをPRしていただきたい。そのためにも、区長や各地区に対して総合計画がまとまった後は説明する必要があると思った。また、まちづくりの重点課題が6分野あるが、取組を伝えられるよう年齢層に応じた概要版があるといいと思った。また、人口減社会の中で日向市だけで人口を維持するというのは非常に厳しいと思うので、今後は東臼杵地域的美郷町、諸塚村、椎葉村の特に中学生、高校生には日向市のまちづくりや図書館についてアンケートを取るのも必要かと感じた。

委員⑪：高校生の場合、ほとんどが進学希望で市外に出ることが多いと思うが、市外に出て様々な知識や経験を得て、10年後に日向市のために何ができるのか考えてもらえると良いと思う。また、市民だけでなく市職員のアンケートも欲しいと感じた。加えて、区加入に関しても具体的に何をしないといけないかを計画書に表してほしい。総合計画は理念を示すものだが、夢を描くことで市民にも理解ができるものになるのではないかと感じている。

委員⑫：高校生のアンケート調査を見て感じたのが、高校を卒業し、日向市を出た後、将来日向市にどうやったら帰ってきてくれるのか、もしくは帰ってくるときに日向市に何を求めているのか、難しいと思うがアンケートのようなものを取れないものかと感じた。また、シビックプライドについても市内で様々な活動をされている方々がおり、手弁当で個人や団体に活動されている方がたくさんいる。例えばサーフィンや観光に関係するボランティアで活動されている方は、日向市の良いところを少しでもやろうと思ってやっていると思う。そういったプライドを持って活動されている方々を、市としてしっかり支えてあげるような施策を盛り込んでいただきたいと感じた。

委員⑬：企業誘致を進めていただきたいと思っている。いい企業があれば近くに住み、通勤することで人口が留まってくれると思う。また高校卒業後、将来何をしようか迷っている子も多いと思うが、とりあえず進学しておこうというような子たちが、安定して働けて生活ができると感じる企業があれば人口流出も防げ、周りの市町村からの転入者や県外からの方も増えてくると思う。

また、資料２の「市内に高校卒業後の進学先がない」とあるが、大学や規模の小さい専門学校を誘致してはどうかと感じた。子育て・教育分野では保育士不足、健康・福祉分野では医師や看護師不足の記載があり、これから高齢者が増えていくということもあり、医療や介護、清武町にあるような建設業を習得する学校などを日向市に作ることによって、人が留まってくれるのかと思う。４月に、日向市、門川町、美郷町、諸塚村、椎葉村の市役所・役場に行って話を伺ったが建設業も人が足りず、公共工事の入札に参加することすらできないという状況も聞いた。そのため、介護や医療、建設業などの学校を作ること流出する若者を止めていくことも考えてはどうか。

委員⑭：図書館の整備について市民からの要望が多いと聞いているが、そのためには財源確保が重要だと思う。ふるさと納税に一番力を入れなければ財源確保は難しいと考えている。都城市の１９６億円とまでは望まないが、日向市が約８億円ある中で、川南町は３７億円、新富町は１８億円をふるさと納税で集めている。おそらく前年が８億円、その前が６億円ぐらいだったと思うが、大きなテコ入れをしなくていけないと思っている。その中で、今まで通りのやり方ではなく、物品の選定や広報活動等のアドバイザーやコンサルの導入が必要かと思っている。そういった中で市民の参加するようなプロジェクトがあれば意見を聞き、どういう方向であればふるさと納税が伸びるのか、そういった話し合いも必要かと思う。

委員⑮：観光については、日向市だけではなく県北地域で考えていくことが必要であり、課題だと思う。また、DMOについても宮崎県のインバウンドが課題だと思うが４７都道府県で最下位になっており、考えていく必要があると思う。交流人口を増やすことで外貨を獲得できるようになるため上手に考えていく必要がある。また、地元で消費することで経済を循環させるというのも一つのキーワードになると思うが、そのためには日向市が観光地であるという住民の意識の醸成が必要。日向市は観光地であり、海・山・川がこんなに綺麗なところはない。これを市民一人ひとりが語れるようになるといいと考えている。

もう一点はインフラ整備。防災、減災を含めた対策が必要であり、そのためには県北地域は道路が脆弱で南海トラフ地震が発生すると国道がほとんど使えなくなってしまう。そのためにも道路が大事だと思う。

人口減少について、結婚しない人が多いと聞いた。埼玉県がマッチングアプリの取組をしているが、AIを使った日向市バージョンのようなものを作ってはどうかと思う。

委員⑯：私の息子が東京から帰ってきているが、やはり帰ってきたということは日向市に魅力があり、日向市を盛り上げたいという気持ちがあると感じる。２０代、３０代で東京や県外からＵター

ンした人の理由も貴重な意見だと思う。そういった若者の意見も吸い上げ、聞く場を設ければ今後の展開も変わってくるかと思う。

また、日向市には海と山があり、県外から来た人たちは良いという話は聞くが、市民は日向市の自然の良さに気づかない面があると思う。川遊びや海遊びなど、「家族で来てもお金がかからないよ」といったことをPRし、活気ある日向を作っていけば人が集まるのではないかと感じた。

会長：委員の皆さんが言われるように、改めて言うまでもなく、日向市の基本的なポテンシャルはものすごく高い。そしてそれに我々市民が気づいていないということがある。そのあたりをしっかりと取り組んでいく必要があると思っている。

また、女性が働ける企業作りについて、企業誘致にしても、女性が働ける企業には思い切ってハードルを低くするような取組もできるのではないかとと思っている。

日向市のすばらしさについて、こどもたちを始め、今住んでいる市民にも繰り返し伝えていく必要があると感じている。委員の皆さんから貴重な意見を出していただいて感謝を伝えたい。

（２）第３向日向市総合計画（素案）について

※資料２、資料３を基に事務局より説明。

５．今後のスケジュール

※今後のスケジュールについて事務局より説明。

閉会